

●東京都町村議会議員講演会（東京都） 浅沼 憲春
令和7年5月7日 15時00分～17時00分

目的：議員の研修

演題 「議員と住民の距離を縮めよう」～なり手不足から主権者教育まで～

講師 拓殖大学政経学部 河村和徳教授

成果

河村先生は、地方議会と住民との距離を縮める事に研究や提言を行っており、議員のなり手不足の話から議員報酬の話題、議会のデジタル化からSMSと選挙・主権者教育などの社旗貢献の2つの大きなトレンドを語り、住民の声を広く聞くにはデジタルとアナログの活用が必要であり、デジタル技術を議会活動で活用して住民の参画を促し、議会や議員と有権者との距離を縮め住民の政治参加の意識を高める事が主権者教育へと結びつけることが大事である。

議会や議員の活動等が住民との距離を縮め、住民とのコミュニケーションが取りやすい環境を造ることも必要とされ、また地方議員に関する誤解について政治学者が定数を減らすや報酬が多い（昔のイメージで余裕のある地主等が無給で議員を行う）、年金がある等の誤った情報を植え付けていると語られ、地元自治体の財政状況や住民の声を反映する事が大事である。

地方議員のなり手不足の問題については、議会と地域住民との距離が問題であり、議会の活動を拡大し住民に理解させる事が重要であり、議員の質の向上が議員報酬の適正化を招くので、議会改革は住民に柔軟な対応を継続的に行い、住民の期待に応えることが重要である。

国会議員や都議会議員との連携は地方議員の重要な役割で、地元地域の声を国政や都政に届ける事は、地域・自治体・住民には将来を考えるには重要な役割である。

今回の講演会を聴衆し、自身の政治家としての意識や知識の向上が今後も不可欠と考えさせられ、「井の中の蛙大海を知らず」のことわざを肝に銘じ今後も町のため、町民の皆様のために行動したいと思います。